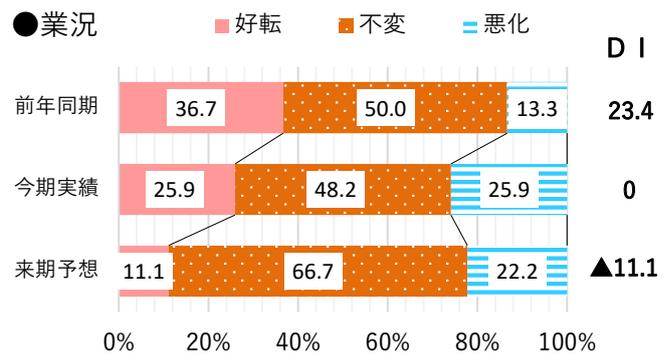


# 観光業

## 業況、売上、採算

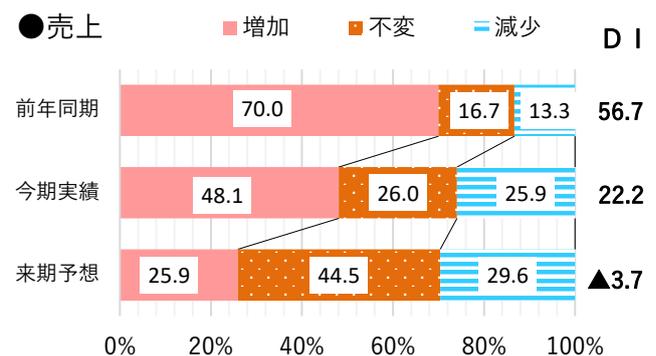
今期（2025.10～12）の業況判断DIは0で、前年同期（2024.10～12）と比べ23.4ポイント低下しました。

来期（2026.1～3）の業況DIは今期（2025.10～12）と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



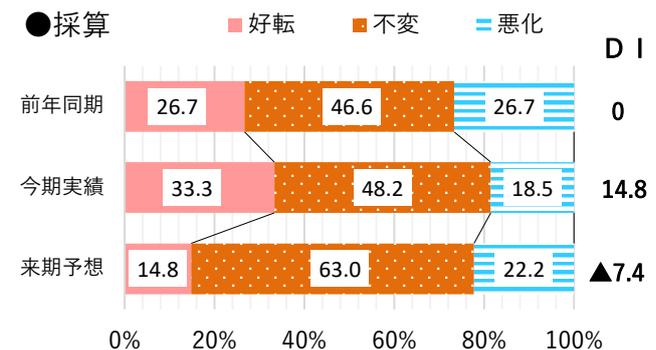
今期の売上DIは22.2で、前年同期と比べ34.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ25.9ポイント低下すると予想しています。

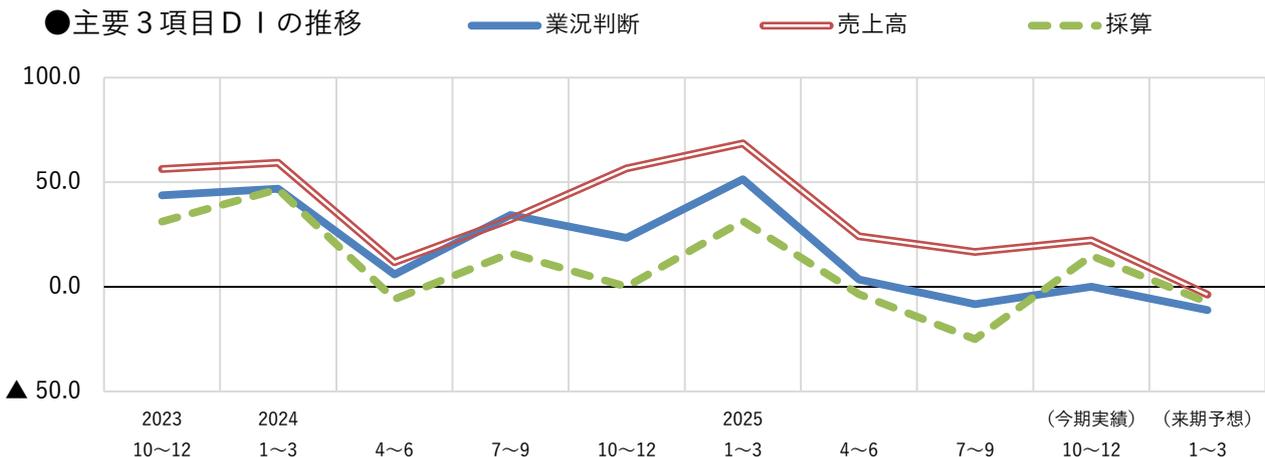


今期の採算DIは14.8で、前年同期と比べ14.8ポイント上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



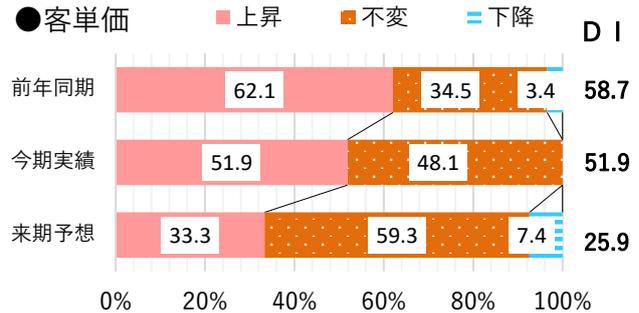
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

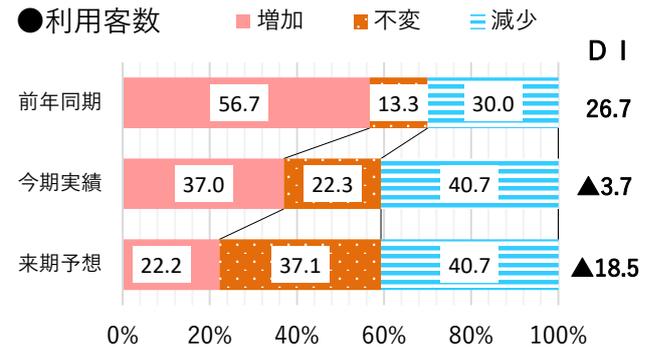
今期の客単価DIは51.9で、前年同期と比べ6.8ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ26.0ポイント低下すると予想しています。



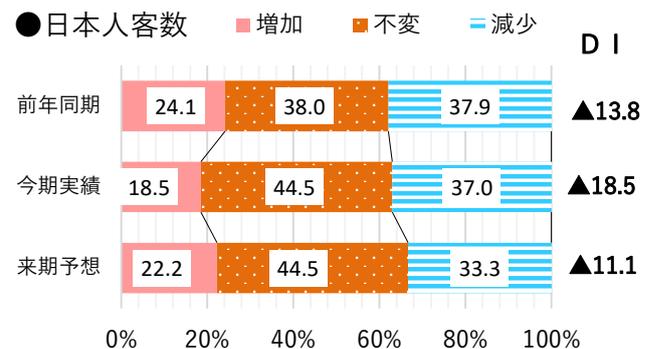
今期の利用客数DIは▲3.7で、前年同期と比べ30.4ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ14.8ポイント低下すると予想しています。



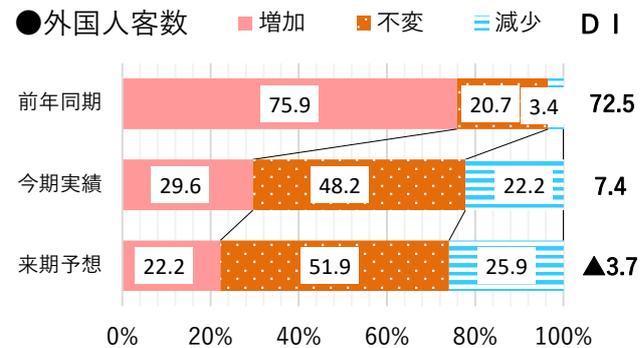
今期の日本人客数DIは▲18.5で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ7.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは7.4で、前年同期と比べ65.1ポイントと大幅に低下しました。

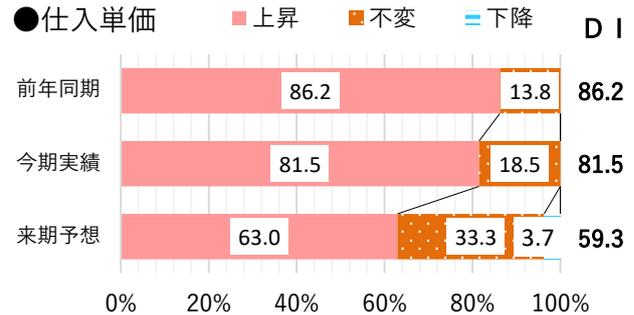
来期の外国人客数DIは今期と比べ11.1ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは81.5で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

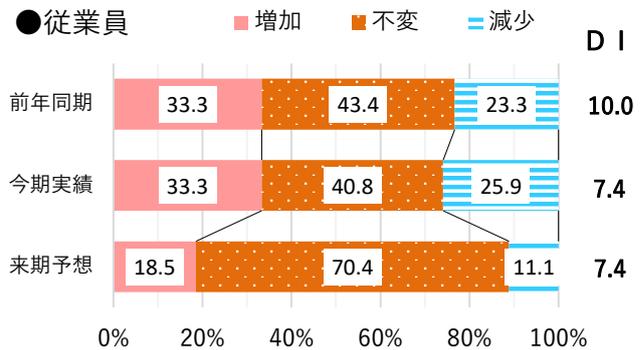
来期の仕入単価DIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



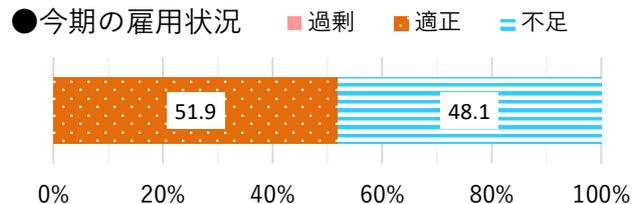
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは7.4で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は51.9%、不足していると回答した企業の割合は48.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、29.6%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	18.5%
	不足	11.1%
不変だった	過剰	0%
	適正	29.6%
	不足	14.8%
減少した	過剰	0%
	適正	3.7%
	不足	22.2%

※回答総数27社

## 資金繰り、設備投資

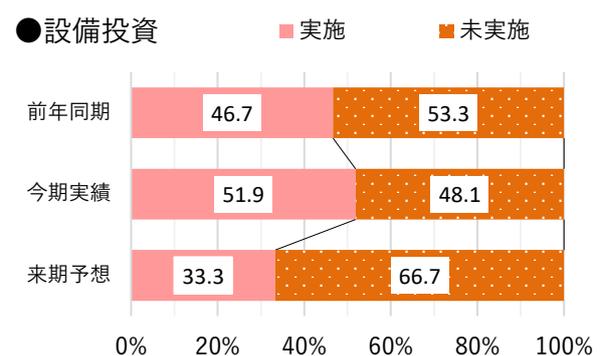
今期の資金繰りDIは11.1で、前年同期と比べ8.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ22.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は51.9%が実施と回答し、前年同期と比べて5.2%上昇しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「サービス設備」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。

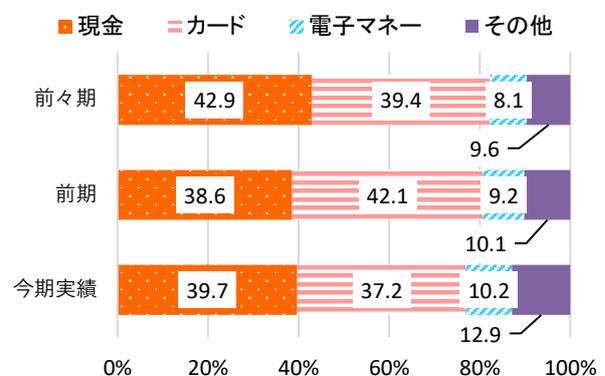


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で39.7%、2位がカードで37.2%、3位がその他で12.9%、4位が電子マネーで10.2%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、ポイント支払い、クーポン券、バウチャー券、銀行振込、プレミアム付商品券の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

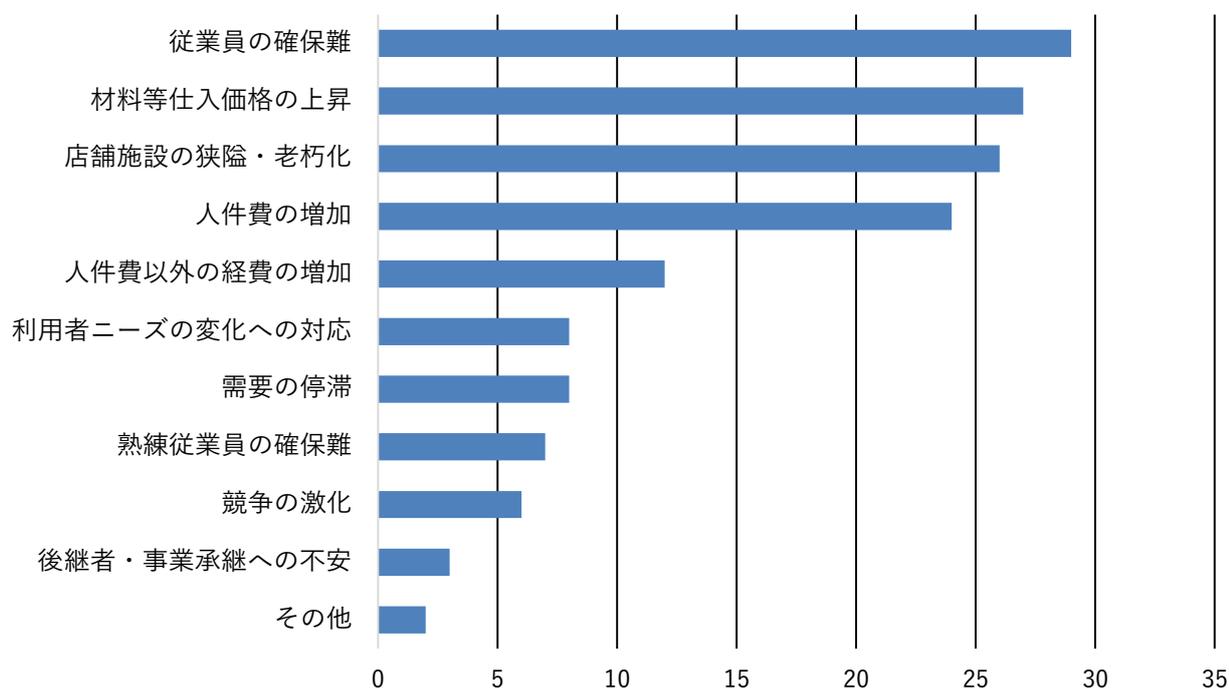


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.7%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順となっています。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 売上額は前年とさほど変わらないが、仕入価格、人件費、最低賃金の上昇などで経常利益が伸びなかった。（飲食）
- 地元のお客様が少し増えてきて少し安心した。（飲食）
- 中国人観光客が減少すると思われる。（飲食）
- とにかく仕入単価が上昇している。（飲食）
- 売上高は、前期比、前年同期比でほぼ同額であった。日本人観光客は減少かつ買控えであったが、外国人観光客は人数も購買意欲も変わらず個人客が増加傾向にあった。販促作戦として小容量かつ価格を抑えた製品の売れ行きが好調で、物価高で費用が増加したが、利幅の大きい製品の販売が良く収支も不変となった。人手不足は変わらないが、外国人への積極的アプローチで1名増加した。（土産品）
- 新店の台頭により、全体売上が増加したが、仕入価格や人件費の上昇のため利益はほぼ横ばいで推移している。（土産品）
- 価格を見直したので単価は上がったが、客数は減少した。（土産品）
- 海外客の増加、単価アップにより、売上が増加した。（土産品）
- インバウンドは減少気味だが、その理由は現在の日中関係悪化によるものではない。（ホテル）
- 中国の動向の影響もあるが他国からのインバウンド客で補填できている。（ホテル）
- 仕入価格の上昇とインバウンド客の減少で業況が悪化した。（ホテル）
- 電気、油の価格上昇分が全ての商品の物価高に影響している。（ホテル）
- インバウンドの需要の増加により利益効率が向上した。（ホテル）
- 例年に比べて外国人客が増加した。（社会教育）
- 売上、乗船客数共に去年同期よりも増加した。（水運）

- 今期はシーズンオフのため、大きな変動がなかった。（娯楽）

## [来期の業況について]

- 商品の値上げで対応して採算を合わせたいが、お客が購買してくれるか不安である。（飲食）
- 今期と同じ状況、もしくは仕入価格や人件費のさらなる上昇が見込まれる。（飲食）
- バイトやパートのスタッフの確保が難航しているので大変である。（飲食）
- 中国人観光客の宿泊キャンセルが出てきている。（飲食）
- 日本人観光客の減少や買控え傾向の継続と突然始まった中国人観光客の減少を考慮して来客数、売上高、利益の減少を予想している。特に雪まつりが厳しいと考える。費用の高騰も続き、特に原料である新米が高騰し、製造原価が大きく増大しているので、減益は避けられない。優秀な外国人からの応募が増えており、外国人との良好な共生職場環境を急ぎ検討、整備する必要がある。（土産品）
- 海外客が減る報道が出ており、売上が減少すると予想している。（土産品）
- 原価が上がっているので採算性は低下する見込み。（土産品）
- 来期大きく伸びる要素は見当たらないが、近隣ホテルの増加が影響してくると予想する。（ホテル）
- 道内の中国人インバウンド客の減少と、小樽エリアの競合施設の増加が見込まれる。（ホテル）
- 仕入価格とインバウンド客数が好転する見込みがない。（ホテル）
- サービスを上昇し、さらなる集客を目指す。（ホテル）
- 外国人客の来館状況は不透明だが、前年よりも増加する可能性が高いと思われる。（社会教育）
- 1年で最も閑散期となるため、売上、乗船客数共に減少が見込まれる。（水運）
- 来期もシーズンオフの為大きな変動がない。（娯楽）